

目 次

プロローグ	1
-------	---

第1部 読み物：OPINION

1. 患者と全人的に向き合う医療を ～ EBMのピットフォールはサイエンスへの過信にある～	9
2. 臨床薬理学の温故知新 ～臨床薬理学研究会発足から40年目を記念して～	19
3. 阿蘇九重カンファレンス30回の歩み ～臨床薬理学の過去、現在、未来～	29
4. より質の高い医療を求めて ～市民参画型医療と「臨床研究基本法」の必要性～	39
5. わが国の文化風土に馴染む臨床試験システムを求めて	51
6. 治験に参加する被験者のメリット ～今後真剣に追求すべきこと～	59
7. CRCの育成とストレスマネジメント ～「素人」のように考え、「玄人」として行動 する！～	69
8. わが国における医薬品の市販後臨床試験のあり方を考える ～ディオバン（一般名バ ルサルタン）論文不正問題から学ぶ教訓と提言～	81
9. 臨床試験データの信頼性を確保するために ～不正行為の再発防止に向けて～	99
10. 医療コミュニケーションの学習と模擬患者（SP）	107
11. 医療コミュニケーション：新しい学習法の提案 ～「医療面接の3つのパターン」と いう考え方の導入～	121
12. 育薬とは何か？	133

第2部 読み物：RESEARCH

1. 時間薬理学 ～現状と展望～	145
2. 時間薬理学と薬物投与計画	159
3. 薬効の日周リズムと加齢の影響	183
4. 薬物治療の臨床効果に及ぼす非薬物要因の影響 ～プラセボ効果とそのメカニズムを 含む～	197
5. 高齢者の薬物治療における問題点 ～服薬コンプライアンスをめぐる～	211
6. 臨床薬理学の立場からみた不安の評価法	221
7. 心理的ストレスとtheophyllineの単回投与（急性）毒性	229
8. Temporal aspects of the pharmacokinetics and effects of psychotropic drugs in humans	239
9. Influence of neuroticism on oral absorption of diazepam	255
10. A model for evaluation of antianxiety drugs with the use of experimentally induced stress : Comparison of nabilone and diazepam	261

第3部 業績リスト

A：大分医科大学に赴任するまでの期間（1966年4月～1989年10月） （九州大学医学部心療内科、九州大学薬学部薬理学、岡山大学医学部脳研、スタンフォード大学医学部臨床薬理学部門、愛媛大学医学部薬理学）	275
B：大分医科大学および大分大学医学部臨床薬理学講座・臨床薬理センター（併任）の期間 （大分大学医学部附属病院長の期間を含む）（1989年11月～2006年3月）	305
C：大分大学医学部寄附講座の期間（2006年4月～2016年3月）	349
* * *	
D：テレビ出演（全国放映）リスト・作成協力VTRリスト	371
E：特別講演・教育講演・シンポジストなど講演実施リスト	374
F：大学・医療機関における特別講演・教育講演実施リスト	376
G：連載中記事（2016年3月末時点）	378
H：創薬育薬医療スタッフの育成活動	384
I：社会的活動（2016年3月末時点で継続中）	388
* * *	
エピソード	393
中野重行：略歴	398